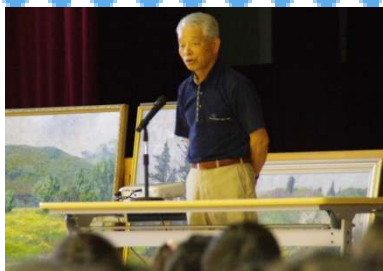


ほかほかタイム

今年も、全校集会において、年6回地域の方をお招きしてお話を聞く「ほかほかタイム」を設けることになりました。第1回目は、文化財絵師の齋藤靖彦様をお招きして、お話を伺いました。

私の職業は、文化財絵師といいます。文化財絵師という職業名も、仕事の内容も、御存知のない方もいると思いますので、スライドを見ながら、話を進めていきたいと思ひます。



私の仕事は、日光が中心ですが、北は青森から、南は九州まで、20県ぐらゐ行ったと思ひます。遠いところは、何週間、あるいは何ヶ月間泊まって、仕事をしてきます。これは、日中ですが、暗くて細かいところは太陽の光だけでは見えないので、手元にライトを持ってかいてるところです。左手に持っているのは、乳鉢というもので、中に絵の具が入っています。筆を持っている手には、指先を切った手袋をしています。汗をかいた手が、彩色部に触れないようにするためです。文化財の修復というのは、自分で好きなことを好きなようにかくのとは違って、何百年も前の絵かきさんがかいたものを、そのまま復元するのが仕事です。線1本、色一色好きなようにかくことはできないのです。

私は、今78歳です。50年間なぜこうして仕事を続けられたかというのは、何十回、何百回と失敗をしてきたからです。そのたびに、なぜ失敗したのかということ、頭が痛くなるほど考えます。そうすると、こういう理由で、失敗したのだということが分かってきます。そして、二度とこの失敗をしない、つまり、失敗が自分の力になるのです。失敗という階段を1つ1つ上っているうちに、いつの間にか50年経ったというわけです。だから、私のこの小さな体は、失敗のかたまりです。

先ほど言いましたように、修復の仕事というのは、自分の好きなようにかくことはできません。その不満が積もって、自分の好きな絵を思いっきりかきたいということで、この油絵を趣味としています。家の中の電光の下でかくのは仕事だけでたくさんなので、この大きなキャンパスを軽トラックに立てかけて、外でかいています。皆さんもこれから梅雨に入って、家の中でばかり遊んでいると、外で思いっきり遊びたいと思うことがあると思ひます。それと同じです。大谷川の河原などこの近くの風景をかいたり、茨城の大洗に行って海の絵をかいたりしています。

齋藤様は、仕事の様子のスライドだけでなく、油絵の実物も御持参くださって、話をしてくださいました。講話後、「文化財絵師の仕事は、昔の人の技をたどることだ。」とおっしゃっていたのが、印象的でした。子ども達の感想は、裏面に載せてありますので、ご覧ください。

ほかほかタイムのお知らせ
日(月)1:30~
学習ボランティア
金田 咲子様
東入口からお入りくださり
リッパを御持参下さい。

.....キ リ ト リ.....

保護者の皆様から、御意見・御感想がありましたら、お寄せください。

担当：大森

次号の道徳だよりに、匿名で御意見・御感想を掲載させていただきたいと思ひますので、御了承ください。